

「文とは何かを理解し、 文と文との意味のつながりを考えよう」

～文の定義や接続語の役割を理解し、分かりやすい文にすることができる～

A ③ 「文の構成を捉える」の結果を分析したところ、文が句点（「。」）によって区切られるということや、1文を2文に分けて書くことに課題があることが分かりました。そこで、本授業アイディア例ではこれらの課題を解決するために、第1学年以上、第3学年以上、第5学年以上のそれぞれの段階に応じた指導事例を構想しました。



授業アイディア例

事例1 文の定義を理解する（対象：第1学年以上）

- ① 文が句点（「。」）によって区切られるということを理解する。その際、文と文章との違いや、読点（「、」）を書く位置にも留意する。



「（読点）」については、主語や接続語の後に付けることが多いんだな。



- ② 文の中における主語と述語との関係に注意して、文の基本的な形を理解する。



基本的な文の形には、
「～が、どうする。」
「～は、どんなだ。」
「～は、なんだ。」
などがあるんだな。



- ③ 右に示す【例】の中にいくつかの文があるかを数えて、句点（「。」）を付ける。



右の【例】は、4つの文でできているわね。

○ 文を「。」で区切ってみよう。

【例】
ぼくは、きのうかぶとむしをつかまえて
いきましました。いちにちでさんびきも
つかまえました。うれしいきもちで
いっぱいになりました。また、つかまえて
いきたいとおもいます。

事例2 接続語の果たす役割について理解する（対象：第3学年以上）

- ① これまでに学習した接続語の種類や役割、使い方について振り返る。



- ② 右に示すAとBの2つの文に接続語を補った【例ア】と【例イ】を比較しながら、文の意味の違いについて話し合う。



- ③ 教師が、Aと似たような1文と同時に複数の接続語を示す。児童は、それに続く2文目を書き加える。そして、できあがった文の意味を確認し合う。



【例ア】は、リレーの練習の努力が報われなかったことが分かるけれど、【例イ】は、練習の努力が報われたことが分かるね。

「しかし」と似た意味の言葉には「だが」や「でも」などがあり、「だから」と似た意味の言葉には「したがって」などがあるわ。



【例イ】 毎日、一生けん命リレーの練習をした。

だから、三位だった。

【例ア】 毎日、一生けん命リレーの練習をした。

しかし、三位だった。

○ 文と文をつなげる言葉を答えよう。

A 「毎日、一生けん命リレーの練習をした。」
B 「三位だった。」

A[3]一 正答率 36.9%

文のはじめの5文字を丸で囲む

A[3]二(1) 正答率 23.6%

接続語を使って1文を2文に分けて書く

〔第1学年及び第2学年〕伝国 (1)イ(カ)
〔第3学年及び第4学年〕伝国 (1)イ(ク)
〔第5学年及び第6学年〕B ウ

事例3 文と文との意味のつながりを考えながら分かりやすい文にする（対象：第5学年以上）

① 右に示す【一文が長くなることで、意味が分かりにくくなる事例】を読み、意味が分かりにくくなっている理由を話し合う。そして、主述に着目して1文を分けたり、複数の文に分けて書いたりする。

② 右に示す【例】を読み、意味が分かりにくくなっている理由を話し合う。そして、文と文との意味のつながりを考えながら分かりやすい文に書き直す。

③ これまで書いた文章（日記など）の中から意味が分かりにくくなっている長い1文を探す。そして、その文をいくつかの短い内容に分けて、分かりやすい文に書き直す。

〔平成二十二年度小学校国語A[4]授業アイディア例〕

例2 文の意味を分かりやすくするために、長い一文を複数の文に分けて書くことで、文の構成についての理解を深める。

第一次

- 一文が長くなることで、文の意味が分かりにくくなる事例について話し合い、学習課題「一文の意味を分かりやすくしよう」を設定する。
例：平成20年度調査A[3]「文章を推敲する」

第二次

- 右の事例の意味が分かりにくくなっている理由を話し合い、主語と述語に着目して一文を分けた上で、接続関係を整えて複数の文に分けて書く。
- 以前書いた意見文などを読み返して、意味が分かりにくい長い一文を取り出し、複数の文に分けて書く。

第三次

- 学習を振り返り、意味が分かりにくい長い一文を複数の文に分けて書くことの効果についてまとめる。

教師 「一文が長くなることで、意味が分かりにくくなる事例」

先生に相談すると、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と話してくださったので、花が好きなところを生かせばよいと気づいたので、花いっぱいときれいな学校にしようと思った。

教師 「意味が分かりにくいのは、なぜでしょうか。」

「の」が二回続いているから、分かりにくいと思います。

教師 「複数の文に分けて書いた例」

先生に相談すると、「あなたの好きなことが、……つながるとよいですね。」と話してくださったので、花が好きなところを生かせばよいと気づいた。わたしは、花いっぱいときれいな学校にしようと思った。

先生が、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と話してくださったので、わたしは、花が好きなところを生かせばよいと気づいた。わたしは、花いっぱいときれいな学校にしようと思った。

【主述に着目して一文を分けた例】

わたしは、先生に相談した。先生が、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と話してくださったので、わたしは、花が好きなところを生かせばよいと気づいた。わたしは、花いっぱいときれいな学校にしようと思った。

【書き直しの例】

ぼくは、野球の試合で三しんをした。エラーをしたりしてしまいました。しかし、九回にはサヨナラホームランを打って、チームの勝利に貢献しました。

【例】では、「三しん」や「エラー」といった失敗と、「サヨナラホームラン」という成功とが、「サヨナラホームラン」で連続して書かれてしまっていることで、分かりにくくなっているわね。

なんだか、文が変だな。何がおかしいのだろう？

本授業アイディア例で示されている、「～ので」、「～たり」だけでなく、「～けど」や「～して」などの表現を用いる場合も、文と文との意味のつながりが乱れてしまうことが考えられるので、計画的に指導しましょう。



本授業アイディア例 活用のポイント

- 事例1と関連して、既習の教科書教材の中から経験したことを報告する文章などを取り上げ、その文章がいくつかの文から構成されているか、文に番号を打つなどして文の定義を理解できるように指導することが大切です。
- 事例2と関連して、既習の教科書教材の中から説明的な文章などを取り上げ、接続語の種類や役割、その使い方について理解を深めることができるように指導することが大切です。
- 事例3については、「B 書くこと」における推敲の指導を重視する必要があります。文章の間違いを正して表現を書き直したり、表現の効果を工夫したりすることを、国語科の学習のみならず、各教科等の学習においても習慣化するように指導することが大切です。